

平成26年度 活動概要と進捗状況

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
調査委員会活動 (JK A補助事業)	付加価値づくりから価値創出にもとづくイノベーションの構築に関する調査等の調査検討委員会	<p>1. 目的、内容 高齢社会、環境問題への社会課題解決に向け、研究開発の新たなマネジメント、産学が連携した人材の確保と育成、検査・分析などの研究開発支援産業などあるべき姿などの視点から、価値創出にもとづくイノベーションに向けての具体的体制の枠組みのあり方の検討を行う。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 5社 5名 学識委員 3名 本検討委員会を親委員会とし、下に4委員会を設置する。 ①研究開発マネジメント委員会 ②技術系人材・教育委員会 ③環境技術調査委員会 ④検査・分析委員会</p>	委員会	<p>①6/24 検討委員会を開催し、今年度調査内容について議論した。調査の論点について意見交換した。具体的な調査は4つの委員会（研究開発マネジメント委員会、人材教育委員会、環境技術委員会、検査分析委員会）にて実施することとした。</p> <p>②2/24 今年度活動のまとめの検討委員会を開催。</p>
	研究開発マネジメント委員会	<p>1. 目的、調査方針 競争力強化に向け、研究開発のマネジメントのあり方のヒントを探ることを目的とし、以下の点を中心に調査を行う。 ①オープンイノベーションによる価値創造の調査 ②価値づくりと研究開発マネジメントとの関連 ③ベンチャーにおける価値づくりの調査</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 15社 18名 学識委員 2名 委員長：(株)コマツ CTO室 富樫主幹 副委員長：(株)IHI 技術開発本部 高田主査 清水建設(株) 技術研究所 柴上席マネージャー</p>	準備委員会	
			委員会	①5/12、②7/4、③9/8、④10/9、⑤11/13、⑥12/15
			国内訪問調査・ヒアリング調査	東芝研究開発センター (7/4) 関西地区 (KRI、大和ハウス、NICT：1/26、1/27)
			講演会	9/8：「知のボーダレス化とイノベーション」電通大 梶谷誠 前学長 10/9：「価値づくりのための研究開発マネジメント」東工大 田辺孝二教授 11/13：「Cerevo流ものづくりと価値づくり」(株)Cerevo 岩佐琢磨 代表取締役 12/15：「ベンチャーとの協業によるイノベーション創出」トーマツベンチャーサポート(株) 本田 知行 アドバイザリーサービス事業部長
		アンケート調査	研究開発を実施している大手企業約1,000社を対象に実態調査を11月に実施、現在集計は完了し、データ解析と報告書作成中。 〔主な調査項目〕 ① 研究開発基礎データ、② 研究開発マネジメントとビジネス戦略、③ 新市場開拓、④ 研究開発マネジメントと グローバル化に対応した人材マネジメント	

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
調査委員会活動（JK A補助事業） つづき	技術系人材委員会	<p>1. 目的、調査方針 「価値創出と人材育成」をテーマとして、グローバルまたオープンイノベーションで活躍している企業の経営・事業方針と、それに基づく人材育成と組織風土についての先進事例を調査する。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 10社 13名 学識委員 2名 委員長：(株)三菱総合研究所 石塚主席研究員 副委員長：日本電気(株) 寺井シニアエキスパート (株)東芝 岩永主任研究員</p>	<p>準備委員会 4月16日</p> <p>委員会 ①7/3 ②7/31 ③11/18 ④12/2 ⑤1/21 ⑥2/17</p> <p>国内訪問調査 7/31 月見荘（イヌイ倉庫）</p> <p>海外訪問調査 10/4-12 欧州訪問調査（ドイツ・オランダ）をEIRMA CTOフォーラム参加を兼ね他委員会と合同で実施 訪問先：I E S E ミュンヘン校、ミュンヘン工科大学、フィリップス、インテルヨーロッパ研究所、DMS、ライデン大学</p> <p>講演会等 7/3 「次代を創る心悸製品開発」～3Mの技術発信とは～ 住友3M エレクトロニクス&エネルギービジネス統轄技術部長 才本芳久氏 11/10 人材シンポジウム「イノベーション創出に向けた人材とその育成」 早稲田大学にて研究・技術計画学会イノベーションフロンティア分科会と共同開催 「我が国の技術人材を取り巻く環境について」 東芝 セミコンダクタ&ストレージ社 統括技師長附 吉森崇氏 「Innovation and talent」 GE Healthcare Japan マーケティング本部 本部長 伊藤久美氏 「慶應SDMにおけるイノベーション創出に向けた人材の育成」 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 白坂成功氏 「時代が求める人材像とその育成」 三菱総合研究所 主席研究員 石塚真理氏 「イノベーション創出に向けた人材とその育成 —今の時代に求められる人材像と育成環境—」 未来工学研究所 主席研究員 小沼良直氏 2/12 ワークショップ「価値創出への挑戦」 他委員会、立命館大学と共同開催 立命館大学 デザイン科学研究センター長 准教授 善本哲夫氏</p>	
	環境技術調査委員会	<p>1. 目的、調査方針 環境技術や環境ビジネスに関わる政策動向、技術動向、ビジネス動向を俯瞰的にとらえ、わが国の産業・企業が抱えている社会システムに係る課題を踏まえつつ、これらの実証を通じて得られた成果をもとに、会員企業の連携による政策提言や技術開発提案を実施する。 ①環境ビジネスの実施状況 ②環境政策の動向 ③環境技術開発の動向 ④スマートコミュニティ等における環境関連技術の総合実証状況の調査</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 11社 14名 委員長：清水建設(株) 山崎上席マネージャ 副委員長：JFEテクノリサーチ(株) 石野理事 (株)三菱総合研究所 高島主任研究員</p>	<p>準備委員会 4月9日</p> <p>委員会 ①5/30 ②7/15 ③9/3 ④9/25 ⑤10/22-23 ⑥10/1 ⑦1/19 ⑧2/18</p> <p>国内訪問調査 7/15 柏の葉スマートコミュニティ 9/3 清水建設本社ビル 9/25 六ヶ所エネルギーパーク（原燃、風力発電、太陽光発電） 10/22-23 福島再生可能エネルギー（産総研福島再生可能エネルギー研究センター、柳津西山地熱発電所）を先導技術研究会と合同実施</p> <p>講演会 6/26 「エネルギーシステムインテグレーション」 ～我が国の新たなベストミックスに向けて～ 東京大学 生産技術研究所 特任教授 荻本和彦氏 10/1 「ベース電源を目指す風力熱発電」 国際超伝導産業技術研究センター 普及啓発・国際部 部長 岡崎徹氏 1/19 「環境政策動向 —2014年を振り返って—」 三菱総合研究所 経営コンサルティング本部 研究員 杉下寛樹氏 「国内外の環境ビジネス市場の概況 2014年度版」 三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部 主任研究員 高島由布子氏</p>	

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
調査委員会活動（JK A補助事業） つづき	検査・分析委員会	<p>1. 目的、活動方針 検査・分析業が直面している課題解決を目的に、各ワーキンググループ（WG）が中心となり、以下の活動を行う。 ①検査・分析業に関する実態調査（WG-1） ②適合性評価の動向調査（WG-2） ③公益法人、公的機関などとの交流・調査及び講演会（WG-3）</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 12社 12名 委員長：(株)日産アーク 山口主管 副委員長：日鉄住金テクノロジー(株) 岸本上席主幹 副委員長：(株)住化分析センター 道徳副技師長</p>	準備委員会	4/21開催済。前期の振り返りと今期の進め方について討議した。
			委員会	①6/11 ②7/9 ③9/9 ④10/21 ⑤11/11 ⑥12/16 ⑦1/27 ⑧2/24
			アンケート調査	「検査・分析業に関する実態調査」アンケートを10月下旬、510機関に発送し、198機関から回答を得た。
			国内訪問調査	10/2-3 訪問先：国立大学法人帯広畜産大学、地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場、経済産業省北海道経済産業局、北海道大学産学連携本部 「食の安全・安心」に焦点を絞り、特に農業王国である北海道の経済の視点も加え、各所の取り組みの現況などを現地調査した。
			講演会	7/9 「検査分析における外部精度管理について」 講師：産業技術総合研究所 計測標準研究部門 津越敬寿氏
	オープン・イノベーションに向けた技術研究会	<p>1. 目的、内容 産業界と独法研究機関及び大学・国公立研究機関との連携により、組織の枠を超えたライフィノベーション、グリーンイノベーション分野での横断的研究情報・研究成果の交換・交流を可能にする「場」の実現を目的とする。このため、今年度は先導技術研究会、先進医療機器技術研究会を設け活動を展開する。</p> <p>2. 研究会構成 (1) 先導技術研究会 委員長：(株)安川電機 つくば研究所 所長 横山和彦氏 委員：13名 オブザーバー：3名 (2) 先進医療機器技術研究会 委員長：東京電機大学 工学部 土肥健純教授 委員：8名 オブザーバー：6名</p>	先導技術研究会	<p>5/30 第1回研究会 於：産総研東事業所 「集積マイクロシステム研究センターの概要」 研究センター長 前田 龍太郎氏 「ナノインプリント・大面積化技術」 副研究センター長 廣島 洋氏 「ユビキタス技術」 副研究センター長 伊藤 寿浩氏 「事業紹介」 MEMS ファウンドリー設備 (一社) マイクロマシセンセンター MNOIC 研究開発センター長 荒川 雅夫氏 「施設見学」 つくば東事業所内 MEMS施設 参加者：14名</p> <p>7/14 第2回研究会 於：東京本部会議室 「アクチュエータ技術の現状と今後の可能性」 東京工業大学理工学研究科 機械宇宙システム専攻 教授 鈴森 康一先生 参加者：13名</p> <p>10/30 第3回研究会 於：東京本部会議室 「グラフェンの開発動向と課題」 (独) 産業技術総合研究所 ナノチューブ応用研究センター グラフェン材料チーム研究チーム長 兼 技術研究組合単層CNT融合新材料研究開発機構 グラフェン事業部プロジェクト本部長 産総研コンソーシアムグラフェンコンソーシアム会長 長谷川雅考氏 参加者：18名</p> <p>11/25 第4回研究会 於：東京本部会議室 「廃炉に向けた産総研とIRIDの取り組み」 (独) 産業技術総合研究所 知能システム研究部門副研究部門長 兼 技術研究組合国際廃炉研究開発機構(IRID) 開発計画部 開発企画室長 横井一仁氏 参加者：12名</p> <p>12/17 第5回研究会 於：東京本部会議室 「BMI技術の研究開発動向と今後の課題」 (独) 産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 ニューロテクノロジー研究グループ・研究グループ長 長谷川良平氏 参加者：18名</p>

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
調査委員会活動（JKA補助事業） つづき	オープン・イノベーションに向けた技術研究会 つづき		先進技術研究会 つづき	1/19 先進技術交流会シンポジウム（第6回研究会） 於（独）科学技術振興機構 サイエンスプラザ 大会議室 基調講演「再生医療の現状と将来」 （独）国立成育医療研究センター 生殖医療研究部部長 阿久津英憲先生 他4講演 参加者：157名
			先進医療機器技術研究会	6/5 第1回研究会 於：東京本部会議室 「福祉機器開発の現状と課題」 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基氏 参加者：16名 10/10 第2回研究会 於：東京本部会議室 「人工心臓開発とそれに関するレギュラトリサイエンス」 東京電機大学参与 福井康裕先生 参加者：11名 11/14 第3回研究会 於：東京本部会議室 「看護理工学 -看護の立場からの医療機器、看護機器について-」 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学/創傷看護学分野 教授 真田弘美先生 参加者：14名 12/16 第4回研究会 於：中央大学駿河台記念館 「新機能素材“hitoe”の開発と応用」 講師：NTT 物性科学基礎研究所 上席特別研究員 塚田信吾氏 参加者：14名
	シンポジウム等	1. 目的、内容 研究開発において多くの業界・企業が共通で抱えている課題等について、斯界の識者からさまざまな視点からイノベーションの創出に向けた取り組みについてご講演をいただき、将来に向けた持続性のあるイノベーション実現に向けた鍵、課題等を議論する。	シンポジウム	11/10 人材関連シンポ「イノベーション人材とその育成」 -今の時代に求められる人材像と育成環境- を研究・技術計画学会との共催。 「我が国の技術人材を取り巻く環境について」 東芝 セミコンダクタ&ストレージ社 統括技師長附 吉森崇氏 「Innovation and talent」 GE Healthcare Japan マーケティング本部 本部長 伊藤久美氏 「慶應SDMにおけるイノベーション創出に向けた人材の育成」 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 白坂成功氏 「時代が求める人材像とその育成」 三菱総合研究所 主席研究員 石塚真理氏 「イノベーション創出に向けた人材とその育成」 -今の時代に求められる人材像と育成環境- 未来工学研究所 主席研究員 小沼良直氏 1/19 先進技術交流会シンポジウム（第6回研究会） 於（独）科学技術振興機構 サイエンスプラザ 大会議室 基調講演「再生医療の現状と将来」 （独）国立成育医療研究センター 生殖医療研究部部長 阿久津英憲先生 他4講演 2/12 ワークショップ「価値創出への挑戦」 立命館大学と共同開催 立命館大学 デザイン科学研究センター長 准教授 善本哲夫氏

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
標準化委員会活動 (JK A補助事業)	新エネ素子の開発加速に資するナノ領域元素分析標準化検討委員会	<p>1. 目的、内容 将来急成長が期待される技術領域では、国際標準規格づくりに先手を打つことが重要である。中でもナノテクノロジー分野の中核技術として製品品質を高精度に保証するための分析技術の標準化が不可欠であり、その標準試料と標準分析手法を検討する。</p> <p>2. 体制 検討委員会を組織し検討。 委員長 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 ナノ材料計測科 表面・ナノ分析研究室 黒河室長 委員 学識経験者 1名、独法委員 2名、企業委員 12名</p>	実施内容	ナノテクノロジーの先端分析技術の国際標準規格を目指して、ナノ領域の元素分析を対象とした標準試料と標準分析手法を検討する。具体的にはわが国が主導的立場にあるISO TC 202のSC 3委員会の次期検討テーマに挙がっている分析試料と分析手順を産業技術総合研究所・標準化担当グループや国内有力分析機関と連携して、共通試料の試作およびその分析・評価について検討を実施する。
			評価試験など	ナノテク高機能材料のうちエネルギー問題解決を念頭に、ナノ領域元素分析の対象となる共通試料・分析手法 (EELS分析、SIMS分析) について実施した。このうちSIMS用に開発した測定試料は15/3に計量標準センターの標準物質として登録されることになった。
			委員会	6/6: 第1回委員会 7/16: 第2回委員会 10/3: 第3回委員会 12/15: 第4回委員会 2/13: 第5回委員会
独自調査活動	目利きコミュニティ委員会	<p>1. 目的、内容 研究開発OB人材の登録・活用制度をH23年度よりスタートし、産業貢献、社会貢献、国際貢献での有効なOB人材活動に向けた具体的な活動企画推進を行う。</p> <p>2. 委員会構成 委員長: 東洋大 総合情報学部 大場教授 委員: 企業委員 5名 学識委員 2名 公的機関委員 2名</p>	委員会	①5/23 ②7/18
			活動	次世代技術開発プロジェクト及び人材育成プロジェクトを検討した。
経済産業省受託事業 (経済産業局)	平成26年度戦略的基盤技術高度化支援事業「角形チップ用フォトレジスト塗布装置・現像装置の開発」	<p>1. 目的、内容 角形チップ用のフォトレジスト塗布装置と現像装置を開発する。装置性能をマイクロめっき技術への適用によって検証する。これにより角形チップ単位でのリソグラフィ加工を実現し、3次元実装技術等を使った電子部品の研究開発コストの低減と開発・生産工期の短縮を可能にする。市場導入に向けて、10mm×10mmのサイズの角形基板に対応できる装置を開発する。</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関: リソテックジャパン (株)、九州大学、(独) 産業技術総合研究所、(株) オジックテクノロジーズ 統括研究代表、副統括研究代表 (研究開発指揮) 統括研究代表: リソテックジャパン (株) 扇子義久Group長 他研究参加者 9名 研究推進委員会 (進捗管理) 参加者: 研究開発担当者8名、アドバイザー3名(村田製作所、産総研、オムロン) 事務局: 当協会 (契約、管理、経理、会議支援) 4名</p>	実施内容	<p>本研究開発の成果により、3次元実装技術や部品内蔵型基板技術を用いた高密度集積電子部品・デバイスを低コストで開発し、少量多品種対応で生産することを可能にすることができ、上記高度化目標の達成に貢献できる。技術的な目標は、「一辺10mmの角形チップの表面に、高密度マイクロバンプのめっきによる生産が可能な厚さのフォトレジストを均一に塗布する」ことである。ユーザーに提供する装置に要する具体的な数値目標は以下のとおりである。本年度は特に、レジスト塗布現像装置の改良、表面処理装置の改良に注力し、3D LSI対応技術の完成を目指す。</p> <p>【1】角形チップ用フォトレジスト塗布装置の開発/チップサイズ: 10mm×10mm、周辺不均一領域: 11mm²以下、均一性: 厚さ10ミクロン±5%、レジスト膜厚: 10ミクロンまで可、大きさ: 幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm</p> <p>【2】角形チップ用フォトレジスト現像装置の開発/線幅均一性: 線幅3ミクロン±5%以下(厚さ10ミクロン)、大きさ: 幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm</p> <p>【3】3D LSI対応技術の開発/チップサイズ10mm×10mmでのめっきバンプ形成、20ミクロンピッチで1万ピンの接合</p>
			研究推進委員会等	10/28 第1回研究開発会議 10/28 第1回研究推進委員会 11/7 中間検査 2/2 第2回研究開発会議 2/2 最終評価会 3/25 成果報告書提出 3/30 第2中間検査 4月 確定検査

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
受託事業 (経済産業省商務情報政策局)	平成26年度 医工連携事業 化推進事業 「様々な内視鏡手術に対応する先端機能交換型極細径屈曲鉗子の研究開発」	<p>1. 目的、内容 近年da Vinci手術ロボットをはじめとする内視鏡手術用の多自由度マニピュレータの開発が進んでいるが、実用化されているのは欧米企業数社のみであり、国内では未だ実用化には至っていない。また極細径（外径3mm以下）で製品化されているものはほとんどない。本研究では、先端機能（把持鉗子や剪刀など）を容易に着脱可能であり、±90°以上の大屈曲が可能な外径3mm以下の極細径屈曲鉗子の開発・薬事申請を行い、国産で、様々な内視鏡手術に有用な手術器具の実用化を目指す。</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関： （株）スズキプレシオン、（独）国立成育医療研究センター 総括研究代表、副総括研究代表（研究開発指揮） 総括研究代表：国立成育医療研究センター 臨床研究センター 研究員（非常勤職員）山下紘正 副総括研究代表：（株）スズキプレシオン 取締役会長 鈴木庸介 他研究参加者12名 研究推進委員会（進捗管理） 委員長：臨床研究センター研究員（非常勤職員）山下紘正 委員：国立成育医療研究センター等より5名、 アドバイザー：福島県立医大 藤森敬也教授、 信州大 本郷一博教授 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）5名</p>	実施内容	<p>先端機能を簡便に着脱可能なモジュール型の極細径屈曲鉗子を開発するために必要となる要素技術を完成し、様々な内視鏡手術に対応可能なシステムを完成させる。以下の屈曲機構及び先端機能の着脱機構については、主に（独）国立成育医療研究センターが設計・解析を行い、（株）スズキプレシオンが試作及び加工プロセス制御の観点から評価を行う。本年度は以下の3つの研究開発要素（極細化、屈曲角度増大、モジュール化）につき、実用レベルの設計（強度解析含む）を行い、試作機を完成する。特に、先端機能モジュール化については早期の製品化を目指す。完成した屈曲鉗子については、（独）国立成育医療研究センターが仕様として設定した屈曲駆動が可能かどうかを、動物実験等による前臨床実験で評価する。</p> <p>① 屈曲鉗子の極細化、② 鉗子の屈曲角度の増大、③ 先端機能のモジュール化、④ 屈曲鉗子の動物実験等による前臨床評価、⑤ 屈曲鉗子の薬事申請準備、⑥ 事業化の調査検討、⑦ プロジェクトの管理・運営。</p>
			研究推進委員会等	<p>7/18 第1回研究推進委員会 9/17 合同伴走コンサル 10/31 中間検査 1/15 最終評価会（有識者会議）（予定） 2/25 成果報告書提出 3月 確定検査</p>
受託事業 (機械システム振興協会)	高齢化社会における安全、安心、便利な駐車場システム戦略策定	<p>1. 内容・目的 ショッピングセンターの大型化に伴い、駐車場は巨大化し、広大な平面的駐車場や高層階の駐車場が出現し、その巨大さゆえに、利用者は不便を感じてきている。高齢化社会の進展で、増加する高齢者によるペダル踏み間違い事故等が駐車場で起きている。本戦略策定では、将来の安全・安心・便利な駐車場システムについて、</p> <p>1. 駐車場のハード及びソフトの安全対策 2. 駐車場利用者の利便性 3. ショッピングセンターの経営促進 4. 車載情報の利用</p> <p>の四つの視点からコンセプトの検討を行う。</p> <p>2. 体制 駐車場に関係する横断的な異業種交流の新しいプラットフォームの「高齢化社会における安全、安心、便利な駐車場システム戦略策定委員会」を組織して検討する。 委員長 エコアンドテクニカ代表：工藤一郎氏（元スバル常務、アイサイト開発担当） 副委員長 東洋大学 大場善次郎教授 委員 学識経験者 1名、企業委員 8名、AIST 1名</p>	委員会	<p>6/10 第1回委員会 7/8 第2回委員会 9/9 第3回委員会 10/7 第4回委員会 11/5 第5回委員会 12/9 第6回委員会 2/3 第7回委員会</p>
			<p>事故状況調査 国内ヒアリング コンセプトヒアリング 自動車の技術動向 盗難対策と車の安全装置 高齢者身体機能と情報システム 全体コンセプト</p>	<p>第1回会合で国内、および第4回会合で海外の駐車場での事故を調査</p> <p>第2回会合および第3回会合で、ショッピングモールの駐車場を訪問し、現地調査</p> <p>第3回会合の前に、委員よりコンセプトのアンケート調査を開始</p> <p>第4回会合で、自動車の安全関連技術動向の調査を予定</p> <p>第5回会合で、カーナビ、車の通信システム、盗難対策および車の安全装置の現状について調査し、報告書の目次案を検討した。</p> <p>第6回会合で、高齢者の身体機能面からの検討、情報システムの検討等を行い、報告書の執筆要領等の打ち合わせを行った。</p> <p>第7回会合で、報告書のまとめと全体コンセプトの検討を行った。</p>

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
受託事業 (機械システム振興協会)	触感の計測・表現法に関する戦略策定	<p>1. 目的、内容 人間の痛覚、温度等の感覚に外部から作用する物理的、化学的影響である外部因子の計測技術と従来の官能検査を変わる標準的な計測結果の表示手法を開発するための方策等の基本概念を、多様な分野の関係者を集め、検討する。</p> <p>2. 体制 「触感の計測・表現法に関する戦略策定」検討委員会を組織して検討する。 委員長 東京大学 生産技術研究所 志村努教授 副委員長 東京理科大学 工学部 佐々木信也教授 副委員長 東洋大学 総合情報学部 大場善次郎教授 企業委員 8社10名 公的研究機関委員 3名</p>	委員会	6/30 第1回委員会 9/2 第2回委員会 11/13 第3回委員会 12/8 第4回委員会 1/30 第5回委員会 2/23 第6回委員会
			国内訪問調査	触感に関する国内リーディング企業・大学10社・機関をヒアリング実施
			海外訪問調査	北米のリーディング企業・大学5社・機関をヒアリング実施
自主活動	産業研究協会世界連合(W-FIRA)	<p>欧州の類似機関の欧州産業研究マネジメント協会(EIRMA)とのMOUをベースに、昨年5月に、米国ワシントンにおいて、産業研究協会世界連合(W-FIRA)が発足し、日本からは、当協会が設立メンバーとなった。このW-FIRAを通じて、グローバルな産業技術に関する人的ネットワークの拡大と欧米等における研究開発マネジメント等の会合との交流を深める。 W-FIRAメンバー国の総会、CTOフォーラム、専門家会合等に参加するとともに情報交換等を行う。</p>	ANPEI総会参加	4月28日、29日開催のANPEI(ブラジル革新的企業研究開発協会)設立30周年記念の「イノベーション・アクション：競争的ビジネスモデル」“Innovation-Action: competitive business models”会合に、Carlos Calmanovic会長より招待状が届き、当協会を代表して、日鉄住金テクノロジー(株)代表取締役社長中村良昭氏が参加し、交流を深めた。
			AIRG事務局長来日	6月13日の午後、AIRG(豪州産業研究グループ)の事務局長Anne Houston女士が当協会を訪問され、今後の協力について意見交換。来年2月に、AIRGは50周年記念事業を予定しており、参加を要請される。
			W-FIRA電話会合	9月19日、W-FIRA電話会合にて、全メンバー参加の会合の打ち合わせなどを行なった。
			EIRMAのCTOフォーラム参加	10月9日にオランダのフィリップスで開催されたCTOフォーラムに、東洋大学大場教授が参加した。
			AIRG50周年記念事業参加	2月24日、25日にオーストラリアのメルボルンで開催されたAIRG50周年記念事業に、専務が参加し、W-FIRAメンバー全員講演、意見交換のセッションで、日本のイノベーション戦略とJRIAの役割について講演し、意見交換を実施した。
広報活動	活動成果発表会	当協会の過年度事業の内容を発表し当協会の活動を広くアピールする。	活動成果発表会	平成25年度活動成果発表会 H25.5.26 安田コミュニティープラザ 竹橋 〔参加者〕49名 〔懇親会は総会と合同〕
	情報提供	協会の中から会員へ向けた情報発信	ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度報告書及び平成25年度・平成26年度の事業に関する公開情報をそれぞれのページに掲載。 会員専用ページに、平成25年度成果報告書や各イベントの資料を掲載。 各委員会委員専用ページに、委員会資料等を掲載。 これらは随時更新。
			JRIAニュース	電子メールによる会員、一般向け広報 (原則月例)
			情報提供	産業技術政策関係情報の提供(経産省/NEDO/JST/総務省等の情報)

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
広報活動 つづき	CTO交流会	<ul style="list-style-type: none"> 企業CTOクラス*の交流機会 (*:協会の理事会社では理事クラス、理事会社以外の会社では協会にお届けいただいた会員代表者クラス、あるいは研究所長など、研究開発の管理責任者の方々) 2ヶ月に1回開催(原則偶数月の第3木曜日) 8:00開催 講演と朝食会形式 上記に加え、第34回から講演と夕食会形式の交流会を開始。 <ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に1回開催(原則奇数月) 18:00開催 講演と夕食会形式 	4/22 第41回 (夕食会形式)	「最新の内視鏡と技術開発について」 オリンパス株式会社 元社長 高山 修一氏 〔参加者〕 5名
			6/ 3 第42回	「情報セキュリティを巡る最近の動向と対策について」 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) セキュリティセンター長 伊藤 毅志氏 〔参加者〕 7名
			7/17 第43回 (夕食会形式)	「“QMONOS” 実用化への挑戦」 スパイバー株式会社 取締役最高技術責任者 菅原 潤一氏 〔参加者〕 7名
			11/13 第44回	「ロボット革命実現に向けた NEDO における取り組みについて」 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) ロボット・機械システム部長 弓取修二氏 〔参加者〕 11名
			12/10 第45回 (夕食会形式)	「世界で最もイノベーションの興りやすい国に向けてー第5期科学技術基本計画の検討開始ー」 内閣府 大臣官房審議官 (科学技術政策担当) 中西 宏典氏 〔参加者〕 8名
			3/18 第46回 (夕食会形式) (予定)	「ブリヂストンの縦、横の広がりへの挑戦」 株式会社ブリヂストン 常務執行役員 グローバルイノベーション管掌 小松 秀樹様 〔参加者〕 名
	検査分析ハイ レベル会合	検査分析業の役員クラスの人的ネットワークの場 <ul style="list-style-type: none"> 検査分析業の発展を目指して、基準認証及び国際相互承認の新しい流れや製造現場の海外移転等の環境の変化に対応して、検査分析業の置かれている現状、課題、今後の方向についての検討、意見交換を行う。 	6/25 第4回	「認証政策の最近の動向」 経済産業省 産業技術環境局 認証課長 和泉 章氏 「検査分析専門委員会の活動状況」 検査分析委員会委員長 日産アーク (株) マテリアル解析部 戦略営業グループ 主管 山口英信氏 〔参加者〕 6名
			9/30 第5回	「公益財団法人日本適合性認定協会 (JAB) の試験所認定等業務について」 JAB 認定センター副センター長 山田 亘 氏 〔参加者〕 8名
			12/4 第6回	「日本の検査分析機器産業及び技術の動向について」 産業技術総合研究所つくばイノベーションアリーナ推進本部 ナノエレクトロニクス研究部門 (兼務) 上席イノベーションコーディネータ 大久保雅隆氏 〔参加者〕 7名
			3/12 第7回 (予定)	「一般財団法人 化学物質評価研究機構 (CERI) の活動状況 (仮題)」 一般財団法人 化学物質評価研究機構 専務理事 大内山 直樹様 〔参加者〕 名

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
広報活動 つづき	研究産業技術懇談会	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発あるいは研究開発の実用化などに関係する部長、課長クラスの方々の交流機会（官庁、大学の方々も含め。） 月1回開催 16:00開催 講演60分、質疑応答・議論60分 提供いただいた話題を中心に議論・懇談。適宜、軽食などで気軽に。 	4/23 第63回	「非鉄金属産業の現状と将来展望」 経済産業省 製造産業局 非鉄金属課 企画調整係長 森川裕介氏 〔参加者〕 12名
			6/4 第64回	「研究開発税制の26年度改正の概要とベンチャー支援の施策について」 経済産業省 産業技術環境局 技術振興課 課長補佐 栗田宗樹氏 〔参加者〕 10名
			9/29 第65回	「エネルギーを巡る状況とエネルギー基本計画の概要」 資源エネルギー庁 総合政策課 調査広報室 室長補佐 大江健二氏 〔参加者〕 18名
			10/29 第66回	「先端の音声処理技術と東芝の取り組み—最新の音声・言語処理技術のご紹介—」 株式会社東芝 研究開発センター 知識メディアラボラトリー 研究主幹 河村聡典氏 〔参加者〕 9名
			1/29 第67回	「防災科学技術研究所における最新の地震研究」 独立行政法人 防災科学技術研究所 観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニット長 関口渉次氏 〔参加者〕 8名
			3/19 第68回 (予定)	「我が国の産業技術政策について」 経済産業省 産業技術環境局 産業技術政策課 技術政策企画室長 田中 邦典氏 〔参加者〕 名
会務	総会	<ol style="list-style-type: none"> 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 体制と出席者 会長・副会長・専務理事、会員代表者、経済産業省 		
	理事会	<ol style="list-style-type: none"> 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 体制と出席者 理事・監事 	第6回 H26.5.26 16:24～16:34 KKRホテル東京 第7回 H26.9.18 15:45～15:55 KKRホテル東京 第8回 H27.3.9 15:45～15:55 KKRホテル東京	
	総合役員会	<ol style="list-style-type: none"> 目的、内容 原則として理事会前に開催。 協会の事業・運営に関する事項について審議。 体制と出席者 理事・監事・幹事 	第5回 H26.5.26 15:30～16:20 KKRホテル東京 第6回 H26.9.18 15:00～15:40 KKRホテル東京 第7回 H27.3.9 15:00～15:40 KKRホテル東京	
	運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 目的、内容 ・協会の運営、事業の推進等の議論を行うと共に入会予備審査を実施。 ・原則として総合役員会前に年間3～4回開催。 ・委員会による企画立案機能を強化するため、運営委員会で企画・評価を実施。 体制と出席者 理事会社及び監事会社から選出された委員で構成 運営委員 17名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 笠部長 	第4回 H26.5.13 10:00～12:00 協会会議室 第5回 H26.9.10 13:30～15:30 協会会議室 第6回 H27.2.26 15:00～17:00 協会会議室	

		目的・体制等	平成26年度活動の進捗状況	
会 務 つ づ き	企画・評価 ワーキンググ ループ	<p>1. 目的、内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員各社の要望に応じて活動を行っていくために、協会の事業に関する企画及び評価機能の強化の目的で設置。 ・原則として年度初めに1回開催 ・運営委員に替わり企画の討議を行う、また、評価では外部識者を入れた討議を行う。 <p>2. 体制と出席者</p> <p>運営委員会の中核的メンバーと外部有識者による評価委員で構成 委員 10名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 笠部長</p>	<p>第1回 H26. 5. 9 10:00～12:00 協会会議室</p> <p>第2回 H26. 7. 22 15:00～17:00 協会会議室</p> <p>第3回 H26. 9. 10 10:00～12:00 協会会議室</p> <p>第4回 H26. 12. 4 10:00～12:00 協会会議室</p> <p>第5回 H27. 2. 9 15:00～17:00 協会会議室</p>	
	そ の 他	技術研究組合 運営懇談会事 務局	技術研究組合運営懇談会の事務局業務の受託	技術研究組合運営懇談会の事務局業務を実施した。